

牧師室から (2023.7.30)

何ヶ月か前に、ホームセンターで賀茂なすの苗が2百円くらいで売られていたので買った。実家の庭の片隅に植えたところ、丸い実が一つなり、一昨日採った。賀茂なすは京野菜として一般に一個8百円から9百円くらいで売られている。普通のナスのおよそ10倍の値段である。それを考えると十分元は取ったかなと思った。そこで何にして食べようかと考えたが、京野菜なので、やはり田楽がよいのではないかと思い、焼いて味噌を作って付けて食べた。自画自賛ではないが、それが頗る美味かった。賀茂なすは普通のナスと比べてきめが細かく、繊維がないし皮も薄い。また新鮮であったのでとてもジューシーであった。妻と母と3人で(メグもいたが)感動を語り合った。

ところで聖書では恋なすび(なす)というものが2箇所に出て来る。一つは創世記であり、レアの息子ルベンの採ってきた恋なすびをラケルが欲しがることである(創世記30:14~)。もう一つは雅歌である。いずれにしてもその植物の妖しい作用が古より信じられていたことが分かる。

後者についてだが、私は教会に仕えるようになって20年以上経つが、実をいうと雅歌をテキストとして説教をしたことがいまだない。もしかすると、皆さんの中でも、長年教会生活をしながらも、礼拝において、雅歌に基づく説教を聴いたことがある人は少ないのではないかと思う。確かに説教を語る方からすれば、雅歌は難しいテキストであると言えるかもしれない。しかし近年小友聡先生が『謎解きの知恵文学 旧約聖書・「雅歌」に学ぶ』(ヨベル新書)を出された。それ以来、私もいつかは雅歌で説教をしてみたいと思っている。

庭のなすの木を見たら、紫色の花がまた一つ咲いていた。茄子の花は「千に一つも無駄はない」と言われているから、またの収穫を期待している。

「恋なすは香り そのみごとな実が戸口に並んでいます。新しい実も、古い実も恋しい人よ、あなたのために取っておきました。」(雅歌7章14節)

(鈴木淳一牧師)